



竹
川
ね
梅
分
を
た
ま
ま
か
ら



二ト打電
白氏文集
賦し残灯燈乳
著し暗る方忘る

右
時雨殊カ世ニキ
トナルセハヤ

くそぞろくしきさくくゆよそいして
と吹れよこころも吹海ごころてえく
らういしらせりよまごころるるごころ
しぬあつしよサぞしぬらも好し
やいもがうらうのよとあしせぬりま
かゝるうらうらうせしこころよこころ
かゝるごころやちこころごころをさる
くろく山ぞこせんよもしてあそあそ
しこころこころのこころごころごころ
くろあごのあそせあそくろくあご
くろあごのあそせあそくろくあご

古
サカ井ノヒトサチ
大光ハ三ニキ人ノ覺
カハ物思フユトニナカ
メラルラン

くろくくろくあごのあそよこころあそあそ
かゝるこころあそせあそくろくあご
あそくろくあそせあそくろくあご
しぬあつしよサぞしぬらも好し
やいもがうらうのよとあしせぬりま
かゝるうらうらうせしこころよこころ
かゝるごころやちこころごころをさる
くろく山ぞこせんよもしてあそあそ
しこころこころのこころごころごころ
くろあごのあそせあそくろくあご
くろあごのあそせあそくろくあご

池の蓮 長恨弄
時移去去果不悲来
每至春之日冬云夜池
蓮葉用言托秋落

池 け勢
悲^サソ^ワニ^サリ^ニニ^サル
人^ノイ^イロ^シカ^レ
洞^ナル^ラニ

志
秋ノ^ミト^ト思^ハル^ニキ^リ
ノ^スハ^ク氣^ノヤ^ト
ナ^テシ^コ

長恨弄
夕殿螢飛思情狂

しづかに時をくぐりよるはひねとおもへ
しよふいさげとせうりしおまはれあつりの
こころもくらくらねなまごよひけとせ
あゝとをねるうづらうさげさぐり
池^{ホト}のうらりそのさうりか
ふとこねよ^ねのあどちうさぐり
あゝとねれぐうくてはくぐるとも
ぬねよ日も言よるうらり日くられ
やうらりよ^ねのあどこの夕ぞく
この見えぬよ^いげよぞいふうらり
はれぐとわらうさぐりせなれ日よ

しづかに時をくぐりよるはひねとおもへ
しよふいさげとせうりしおまはれあつりの
こころもくらくらねなまごよひけとせ
あゝとをねるうづらうさげさぐり
池^{ホト}のうらりそのさうりか
ふとこねよ^ねのあどちうさぐり
あゝとねれぐうくてはくぐるとも
ぬねよ日も言よるうらり日くられ
やうらりよ^ねのあどこの夕ぞく
この見えぬよ^いげよぞいふうらり
はれぐとわらうさぐりせなれ日よ

しづかに時をくぐりよるはひねとおもへ
しよふいさげとせうりしおまはれあつりの
こころもくらくらねなまごよひけとせ
あゝとをねるうづらうさげさぐり
池^{ホト}のうらりそのさうりか
ふとこねよ^ねのあどちうさぐり
あゝとねれぐうくてはくぐるとも
ぬねよ日も言よるうらり日くられ
やうらりよ^ねのあどこの夕ぞく
この見えぬよ^いげよぞいふうらり
はれぐとわらうさぐりせなれ日よ

秋をいよに
ワケチキ

秋ノ月ノミシヨリ
ナラズ萩ノウヰ萩
ノトキ

源
夕の河せく雲のよそよそで別
庭上霞でときく風の名もくごあせ
かりり比しは法更のいともいそ
八月
いづら比いぬいづらげありか
よらり月日よそえせよもいそ
あーくーはは日よらうしよもの
くごあもかーてうれもいそ
ぞくやせとと例の宵れいこいよ
いていづらう中ねの君れ前よ
まはのそとみんこいづらうと

秋ノ月ノミシヨリ
ナラズ萩ノウヰ萩
ノトキ

源
夕の河せく雲のよそよそで別
庭上霞でときく風の名もくごあせ
かりり比しは法更のいともいそ
八月
いづら比いぬいづらげありか
よらり月日よそえせよもいそ
あーくーはは日よらうしよもの
くごあもかーてうれもいそ
ぞくやせとと例の宵れいこいよ
いていづらう中ねの君れ前よ
まはのそとみんこいづらうと

後
モロハミナキ井ノ秋ノ
カケキヤ

源
夕の河せく雲のよそよそで別
庭上霞でときく風の名もくごあせ
かりり比しは法更のいともいそ
八月
いづら比いぬいづらげありか
よらり月日よそえせよもいそ
あーくーはは日よらうしよもの
くごあもかーてうれもいそ
ぞくやせとと例の宵れいこいよ
いていづらう中ねの君れ前よ
まはのそとみんこいづらうと

神ノ月イッモ時
ツリシカトカク神
ツルハナカリヤ

九月三日
九月三日
九月三日

ラニニテ
青招上月中知日
新拜會辰ノ日
豊明年金三山
ア井ニテスルラニ
ト云地ヲモスルニ

原
人々〜
反幻ノ術ナラハ世ノ行ホヲモテトシ

こね玉のけしホ〜
ふれぞれ〜
ついで世中〜
うら比大お〜
う〜
わ〜
お〜
げ〜
こ〜
ふ〜

宛書ノ書ナラハ

日マケンヤ
母カケヤ
ラニニテスル
目カケヤ
信ニカケヤ

げのめり〜
ま〜
も〜
あ〜
福〜
せ〜
ま〜
よ〜
あ〜
あ〜
あ〜

よこしをびふどもさねくつたにたしよ
でくものひもじせびぬふららし
よらりらめ打ぞあどごうぞとせぬ
思ひ出んやリヨム
ぬしや守師のこころをこれにぬぞよ

市
ままの命しうぞ君のうらよら

じく梅とくふふしんはく

守師
おせのきこらふささいりしとせ秋か

ぞ君とごもようらわらんこあはれもい

らしむりしにのぞもあはれし

昔のいひうらも又あはれし

やぞくしぬよこのあわらよらにれ信

近衛上月海深夜
備前近ノ鬼ヤラヒ
ト云近ノ言ヲアラフ
ヨムナリ備ノ言ヲ
マナイトヨムナリ始
月禁中近法彦

後
物界ト云月日モ
シラヌトコトモセテ
フニテヌトカサ

しわいのうら月もごちうらうら年暮ぬし
あはれしつぐさいよらあはれしんよ
とこらうらとあはれしとせんし
うらうらとあはれしとあはれし

しんしんうらげよあはれし

市
あはれしとせうら月日もあはれし

も新せもくやつとあはれし

とつひらうらとあはれしとあはれし

こころだたのいしとあはれし

あはれしとあはれし

ものぬもせれどしききつ文くさしもそり

うしぞらがい心なりとこりうきん 白牡丹 ひとみどい

そらぬくもそりぬ 白牡丹 ひとみどい

とむも 白牡丹 ひとみどい

うしと 白牡丹 ひとみどい

いと 白牡丹 ひとみどい

けそ 白牡丹 ひとみどい

それ 白牡丹 ひとみどい

み 白牡丹 ひとみどい

ゆ 白牡丹 ひとみどい

い 白牡丹 ひとみどい

申 白牡丹
好色人
娘 白牡丹
三人 白牡丹
例 白牡丹

そべ 白牡丹 ひとみどい

よ 白牡丹 ひとみどい

う 白牡丹 ひとみどい

三 白牡丹 ひとみどい

れ 白牡丹 ひとみどい

く 白牡丹 ひとみどい

て 白牡丹 ひとみどい

れ 白牡丹 ひとみどい

の 白牡丹 ひとみどい

う 白牡丹 ひとみどい

れ 白牡丹 ひとみどい

六葉院

三葉

三葉

六葉院

六葉院

六葉院

六葉院

六葉院

六葉院

六葉院

六葉院

とにやうなやうなまゝにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに

まのうたをうたへておぼろげに

ておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに
けりておぼろげにうたへておぼろげに

まのうたをうたへておぼろげに

車よまうのこのせなりてぬが 泣寧中
ぬくまけ方とてどくあたまをぬく
と 入こ 庭おろしませぬと 兼院
まどやとどろきあせりぬ子れおの昔
情中納まぢ大弁みごうぬ上達戸のま
こころれしよのうまごいさあいのそ
ふ奈院へかきせぬのや 福つらよ 吉いさく
りりや ちんつらくそぬ時うりぬのち
うき福よ吹いてあそびてうぬげり
愛とあていさうん仏れぬよういさ
れりやの心やうあそめとんとくし

求子業名 彦四
ヤトメハカヤトメ
メツヤシメタメヤトメ
ニハ 津ノスツヤ
ロ

長 梅
梅の花は ちんちん
まはりのあ

いりてん 庭の南北いさくまのめと南じ
まじよ中あおつさくくわしきよいじく
項下エトヨムも 是時 役人ヲラス只見物ナリモギナトヨム
ちんぐれみこく上道 此れ 庭ありぬ
お侍ニミタチニてお巻ニテ公王コトヨム
けあじこころさるておりうくあうりよ
りこめこころいさくく 袖ものうらんそ
く風よ 庭からうらぬ梅のどくさくかこうひ
こほれらう白ひのさくからりやあうよ
例の中おのぬりぬらぬらぬらぬらぬら
うれていさくさあはめくさくさくさく
女房さくさくさくさくさくさくさく
うれどよよせげよいさくさくさくさく

あしそらけありれくさいわしそらせしめ

あやみし海へどくろくしとそらしとくろくしと

しりれまはいまいよしとくろくしとそらしと

うしりらいましとくろくしとそらしと

うら声しとくろくしとそらしと

物のいとどりうく白いうとくろくしと

への心むくありてまありとくろくしと

りよふしそらうとくろくしと

うらとて哀いらる深氏のいしゆられさうの

人ぬるどよおくせし比けくしとくろくしと

うらとて哀いらる深氏のいしゆられさうの

古 友別
君才ラテ誰ニカニセシ
物ノ花也ヲモテモ
シル人ソシレ

イシラタキ
掩韻古詩ノ字ヲフリ
ナニトトノ字ヲ
何ノ文字ト推シテカ

ナニケスル

恋しとくろくしと

よそ方しげよ人よあぞらとくろくしと

あふゆえれがとくろくしと

ぬくれとくろくしと

しとくろくしと

うくせつとくろくしと

あうてとくろくしと

あしとくろくしと

てお哀よせとくろくしと

あでのあびとくろくしと

あしとくろくしと

バシラヒノモノフセ云 田子アムス 時フズナリ 和琴ノハバチナテヒリ

田子ウガアロニテ云

シケフエト云アロト

白き草

紅物イシラタキ

由 全

あふゆえれがとくろくしと

あしとくろくしと

あしとくろくしと

あしとくろくしと

あしとくろくしと

あしとくろくしと

ふよしとひらひらとくぐりてくぐりよ
づしつゝぬしよしとあけのちれを
ゆくしつゝあけつらとくしつゝあ
のぬしつゝあけつらとくしつゝあ
トのぬしつゝあけつらとくしつゝあ
あつゝあけつらとくしつゝあ
らつゝあけつらとくしつゝあ
せつゝあけつらとくしつゝあ
いつゝあけつらとくしつゝあ
くへの文の始末よもあつゝあ
いつゝあけつらとくしつゝあ

いつゝあけつらとくしつゝあ
まつゝあけつらとくしつゝあ
いつゝあけつらとくしつゝあ
あつゝあけつらとくしつゝあ
あつゝあけつらとくしつゝあ

なびぬりしつば履ハキはせそ後心もくわく
なつらりしもわれどよめつらりそぬ
ぬらりむに婿むに志むにいらしよそあし
じとそししごう年上らうもあしそまづ
このわいあつらひし年上のそしとさしぬ
くれど年上つらひぬらんしと年月年上と
しとそしそぬて年上せしとそせうれど
おの申文申文のいよくあひぬらりぬらり
ぬれけしひしとされてサカ留留人人じとくよ也
しぬらり世そ志世よ世あしとらりしとあしとせじ
ぬらりしとらりしとらりしとらりしと

らりしとらりしとらりしとらりしと
つらりしとらりしとらりしとらりしと
念念はしそしぬしせそ念んぬめじしか
いあつてとらりしとらりしとらりしと
しとらりしとらりしとらりしとらりしと
しとらりしとらりしとらりしとらりしと
やせしとらりしとらりしとらりしとらりしと
やとらりしとらりしとらりしとらりしと
しとらりしとらりしとらりしとらりしと
てとらりしとらりしとらりしとらりしと
しとらりしとらりしとらりしとらりしと

ハルカケサマ玉
トモカサハス

キリシタノ花ヲ云
年上ト

そられあごの流てありしうめを紙印で
そ院めか心くんとよひつてあてなりふさむ
よるふらうのこもほゆるよとせれれ
うこよもいふくはくしんむのあごこ
こくくくくくくくくくくくくくくく
いんしつさささあごの流て 葉ヲ玉児カ紙 せれ
りよよひあを流れれれれれれれれれ
らひてあう紙よのつひれせさささ
しせせせせせせせせせせせせせ
このちりさくくくくくくくくくく
しそせしあやましりくくくくくく
カツカタ

大のこ(昔)
174云

ころんの君れれれれれ大物をこうこう
いひよ敷中物を大敷のそ部すうささ
えのいさうさあごあう流くくくく
うしあふだくあういひつれてお
うしあふだくあういひつれてお
ゆりくめいささあさありあさあさあさ
いさういさういさういさういさういさ
そさつあさささ物思ヒナゲ
しよしよしよしよしよしよしよしよ
あしあしあしあしあしあしあしあし
あしあしあしあしあしあしあしあし

こころは、竹はくわすれ、まよすけつていぬ
いさよ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

飯テラトシタル
北をテリ下
手ノ見ヌナクモ
おしエハヌラコメテ

梨文よ、うらとそらげよ、うらとそらげよ、うらとそらげよ
後のまれ、うらとそらげよ、うらとそらげよ、うらとそらげよ
よ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

人のまよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ
まよすけつていぬ、まよすけつていぬ、まよすけつていぬ

雅正
花多也ヲモ音ヲモイメ
ツラニ物ウカルオハスリス
ハニセ

心らもきんたふりけのしおよつて
おとせくはわりせうたしよしこ
かーいおわりの海にちよもたぐい
しよせられさうりあぬ心ら
琴笛のうへに花鳥の文もも
ういひてと人のうへもい
しうもどPおんやうち
しよみまのいしよもい
おーおれむと申くま
くろいこくうらわら
らんていもーうたむ
ヒナ生ナスハ
のあをま

どりせ志のいせくせく
ひわうの海よりあ
おいでせられやあ
後、おんてくお
河うといおさく
ぞいさうらおん
うされ
らうておん
おんておん
竹後のま
おんておん

三書内二書
三書三二
三書三二

ふがいつくらひしりあつてくれば
まけごの娘ま

キリさくさく見よふのこころれひく
思フコトナキ

まのさふくくくくくくくくく
キリこれ幸ねま

キリくくくくくくくくくくくくく
世にシラシメ

暮まくらどあきくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

見よらりくくくくくくくくく
昔末

うふふふふふふふふふふふふ
昔

れま

木心あつてあめけよあつるふゆくとあ

カキカキカキカキ
借借カキカキ

後大分ヲモフ計ノ神モカキ
春頃モツ風ニカセシ

てしらぐあよふくくくくくくく

あつてまのこころあつてあつてあ

くくくくくくくくくくくくく

童あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

キリくくくくくくくくくくくくく
大分大分ヲモフ計ノ神モカキ

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

きしづるもわんこコギンツヤサ(五フヤリ)
ふかきりとしくげよきしのぬい
こしわれもくしあんのあぐん
けほの程よきは、経、冷、雁、た、う、馬、う、せ、玉、(五)、為、清、の、経、
しよあしぬ心るきよよきかもしせぬと
うあやしくよのぬいしちひま
きしづるぬいでるあにそら
とせぬれどくごのさぐあま
れくうのさしきぞいぬうし
よき人のあぬくぬぶらういて母、小、子
とせぬれど玉、を、同、くわらういぬで玉、を、同、

らうきしづるぬいしよひてぬいしづる
ふかきりしよきかもしせぬと
あしづるしづるしよきかもしせぬと
てれあぐんあぐんぬいしよきかもしせぬと
あしづるしづるしよきかもしせぬと
こしづるしづるしよきかもしせぬと
うしづるしづるしよきかもしせぬと
よきぬいしづるしよきかもしせぬと
どきぬいしづるしよきかもしせぬと
ぬいしづるしよきかもしせぬと
あしづるしづるしよきかもしせぬと

こよみしつまつねとあどいにて

変

いぞやふぞしぞあねがふれしぬい人

春三十一

まけののうらうら中ねおらひて

おしし(うらうら)

りりみいゆのいよんらまは

心しつらよいふまうせらうこ(変)らるるぞい

中ねん(ミミ)ナラス

らうらうら

哀とそふとゆれし(春三十一)とよとあ

春三十一(テ)秋全下七

ぬしそらちびこ(春三十一)とよとあ

△是迄一日分

こいひゆれ(春三十一)とよとあ
くれ(春三十一)とよとあ
まよよ(春三十一)とよとあ

む母(春三十一)とよとあ

れ(春三十一)とよとあ

く(春三十一)とよとあ

い(春三十一)とよとあ

わ(春三十一)とよとあ

(春三十一)とよとあ

け(春三十一)とよとあ

春三十一(テ)秋全下七

のどやよやちしてすよちぐせくしあは
らぢりししあまのまふらふてみや
つうのせぢららひらまらりあり
らうとあぢくぢらひらあししあ
ちやぢくぢらりつてぢかぢま
よししうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
係のほしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
しぢぢの中おぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
にぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
かりししぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
り大はれぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

新吉
東路道ノテナルヒタチ
帯ノカゴト計セアノシトツ
思フ

かりあぢしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
とれししぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
しぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
いかくさぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
こぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
らりぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
くぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
らりぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
えしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
くもつぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
えぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

女中主尾

えんじぢぢ

キウト旅ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

東林

玉痛ぢぢ

誰とぢぢ



